# 第１回地域安全まちづくり審議会議事要旨

## １　日時

平成18年５月26日（金）14:30～16:40

## ２　場所

兵庫県公館　第１会議室

## ３　出席者

○　**委員**

岡委員（代理：伊窪神戸市立名倉小学校校長）、木谷委員、國松委員、齋藤委員、佐伯委員（代理：神吉県町村会事務局次長）、坂本委員、瀬渡委員、細谷委員、村井委員、山下委員、山田委員

○　**県側**

井戸知事、藤原県民政策部長、木村地域協働局長、藤原地域安全課長、石本県警察本部生活安全部少年捜査課長ほか幹事課室等

## ４　内容

### (1) 会長の選任について

会長は、山下委員、会長代理は、井上委員に決定した。

### (2) 諮問について

井戸知事から、山下会長に対して、諮問文「推進計画及び指針について」を手交した。

### (3) 「運営規程」及び「傍聴要領」について

原案どおり決定した。

## ５　主な発言内容

**（安全な地域コミュニティの形成について）**

・　地域安全まちづくり推進員の委嘱については、委嘱の前に必要な「人材の養成」について、推進計画にキチッと項目立てすることが必要ではないか。

・　推進計画は、県、警察本部が行う施策の内容と枠組みを作ることは勿論重要であるが、それを受けて「地域は何をするのか」ということがはっきりしないとうまく行かない。

　県の施策を見て地域で実際動いてくれる、そういう人達をキチッとつくっておくことが大切であり、地域の方で動いてくれるキチッとしたノウハウを持った人を育てることが必要である。

・　犯罪への対応には、ある意味で人海戦術的なところがあり、地域安全まちづくり推進員に従って動ける人がどれだけたくさん出てくるかが重要である。

・　防犯活動は、非常に地味な活動で、なかなか楽しみを見つけにくく、続けていくことが非常に困難な活動ではないかと思っている。

犯罪の数がどんどん減ることによって、活動を止める人が出ることを最も懸念している。減りはじめて慌てて何かをやっても、追いつかないということになりかねないので、今の盛り上がった状態をいかに維持していくかということを視野に入れて推進計画に盛り込んでいくべきと思う。

**（犯罪に強いまちづくりについて）**

・　公園の整備について、どこに電話すればよいのか分らない。結局、何かことがあれば全部交番に通報している。公園の整備をどこに言えばいいか、というところからキチンと書くべきである。
・　推進計画を策定するには、地域から見た目線というのも意識する必要があると思う。

**（子ども犯罪から守ることについて）**

・　神戸市長田区内の小学校では、警察署から学校に出向き、１年生でもわかり易いように寸劇で防犯教室を開いてもらっている。
　地域の皆さんには、子ども達の登下校等の見守りなど、いろいろな形で安全に関する取組が進んでいるが、子ども達が自由に大声を出して遊べる環境が、少しずつ失われていることが気がかりである。
・　私達のまちでは、年１回まち全体で掃除しているが、例えば、捜索の必要があれば、普段やっている掃除の範囲内で調べることにより、まちの中だけは網羅できる。そういうものを活かしていく必要がある。
・　子ども一人ひとりが事件事故に遭わないよう気をつける教育から、もう一歩進め、子どもがサービスの受け手と捉えるのではなく、サービスをつくり出すにはどうしたらいいか考えてもいいのではないかと思う。
　例えば、集団登下校では、何も大人がついて行かなくても、子どもが沢山固まって、子どもが互いに守り合ったり、中学生が小学生を守るというプログラムを考えられないかと思っている。
・　連れ去られそうになった小学生が防犯ブザーを鳴らし、別の近くにいた小学生が携帯電話で写真を撮りそれが決め手で犯人が捕まった事例など、小学生のパワーと、防犯教室の効果が出ていると思った。

**（その他）**

・　数値目標は、どういう目標が適切かということが大事である。
・　危機意識は、犯罪が減少していくとどうしても低下していくが、そうならないよう、定期的に何かをやるとか、訓練をすることが大切である。
・　推進計画づくりは、現場のアイデアを取り入れ、現場を踏まえた対策を練る必要がある。
・　具体的な施策、事業の取り組みのところでは、県と市町の関係について、しっかり捉えていかなければならないと思う。
・　県が指針・推進計画を作られても、人の整合性の問題があると思う。
・　私が住んでいる市では、以前からまちづくり条例がある。県の条例は、少し遅きに失すると思っており、市との整合性が余り見えてこない。

・　条例を作っても魂を入れずにならないよう、やはり現場の意見を沢山取り入れて、推進計画、指針づくりをすべきと思う。
・　私達の町では、常日頃から訓練をやっている。防犯は見回りだけではなく、起きたときにどうするか、起きたときにどうするかが防犯であり、そういう視点が多少抜けているという気がする。
・　まちの中では、防犯は単に一つの問題ではなく、色々なものが付随するので、もう少し、防犯の範囲を広げることにより、犯罪もなくなるように思う。
・　自分達の地域における活動が、基本理念とか、基本の目標とかに当てはめられればと思っている。

**（企画部会の設置について）**

（部会設置について、各委員了承）

（山下会長から、部会委員に池田・井上・岡・瀬渡・高田・山下委員、部会長に山下委員を指名）